

保護者の皆様へ

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果の概要と今後の取組について

丹波市立市島中学校

はじめに

令和4年4月19日に実施された令和4年度全国学力・学習状況調査（中学3年生対象）の結果から市島中学校の成果と課題を考察しましたのでお知らせします。この調査は、文部科学省により以下の3つの目的で平成19年から実施されております。

<調査の目的>

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の内容は、教科に関する調査（今回は国語、数学、理科）と生活習慣や学校環境に関する質問紙調査になっています。本校においても結果を分析・考察する中で、今後の指導および学習状況の改善に役立っています。

教科に関する調査の結果

本校生徒の正答率を全国平均と比較すると、国語、数学、理科ともに±5ポイントの範囲内にあり、全国平均と同程度という結果でした。以下、それぞれの教科の成果と課題、および今後の取組について説明します。

(1) 国語

成果

全国平均に比べて正答率が高かった問題は「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する」「表現の技法について理解する」「行書の特徴を理解する」という出題趣旨の問題で、評価の観点としては「知識・技能」、学習指導要領の内容では「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題でした。また、「スピーチの内容をどのように工夫して話すのかとそのように話す意図を書く」のような記述式の問題でも、全て平均を上回りました。この結果から、自分の考えをノートに記述し、ペアやグループトークで友達に説明したり、意見を深めたりする活動を継続してきたことが効果をあげていると考えます。

課題

正答率が低い問題は「文脈に即して漢字を正しく書く」、「論理の展開などに注意して聞く」という趣旨の問題でした。観点別に分けた問題の正答率を全国平均と比較すると、「思考判断表現の読むこと」にやや課題がありました。

今後の取組

漢字テストは週 1 回定期的に行っていますが漢字や文法事項を苦手としている生徒が多いため、今後より多くの漢字に出会う機会を増やすとともに、楷書で丁寧に書く習慣をつけていきます。また、「読むこと」についても、教科書以外の文章を読みとっていく力をつけるために指導方法を工夫し、実践していきます。無回答率の高い問題を分析した結果、記述式を苦手としていることがわかります。苦手意識を払拭し、気軽に楽しんで書けるような課題をさらに工夫し、さらに取り入れていきます。

(2) 数学

成果

正答率が高かった問題は、『データの活用』の単元の問題で、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるか」、「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができるか」といった問題でした。これから情報社会で生きていく生徒にとって、なくてはならない力がついていると思われます。授業でタブレット端末を使い、調べ学習等で資料を読み取る機会を増やしたことが成果につながったと言えます。

課題

正答率が高い生徒数が少ないこと、記述式の問題での無回答率が高いという特徴がみられます。特に正答率が低い3問をみると、「自然数を素数の積で表せるか」、「一次関数の変化の割合の意味を理解しているか」、「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるか」といったもので、誤答原因の多くは「言葉の意味が十分に理解できていない」、「文字式の意味が十分に理解できていない」ということでした。

今後の取組

無回答率が多いという結果をふまえ、今後は『自分の意見を持ち、説明する力』をつけるため、友達に自分の考えを説明したり、応用問題を友達と一緒に考えて自分の意見をノートに記述したりする時間を確保するなど、表現する力を育む取組を進めていきます。また、知識や技能の問題に課題が見られたので、間違いが多かった「素因数分解」や「文字式」は授業中に何度も出てくる内容ですが、言葉の意味や計算方法などをその都度確認し、繰り返しながら理解を深めていきます。

(3) 理科

成果

全国平均に比べて正答率の高かった問題は、エネルギー・粒子を柱とする領域の、「グラフの作成や粒子のモデル化などの技能が身につけている・身近な事象に関する知識及び技能の活用ができる」という出題趣旨の問題でした。このことから、エネルギー・粒子を柱とする領域で、実験結果から目的にあった考察ができる力がついてきていると考えられます。授業において実験結果の考察を自分の言葉で書くレポートを数多くこなしている成果だと考えられます。

課題

正答率に課題のある問題は、「地球・生命を柱とする領域の思考判断表現に関する問題」という出題趣旨の問題でした。特に『地球を柱とする領域』の記述式の問題において課題があります。実験結果の根拠を考える着目点を導くための基礎的な知識が十分でないことや知識を活用し考察する力に課題があると考えます。この領域は、思考理解するための実験が特にしづらい領域であることが関係していると考えられます。

今後の取組

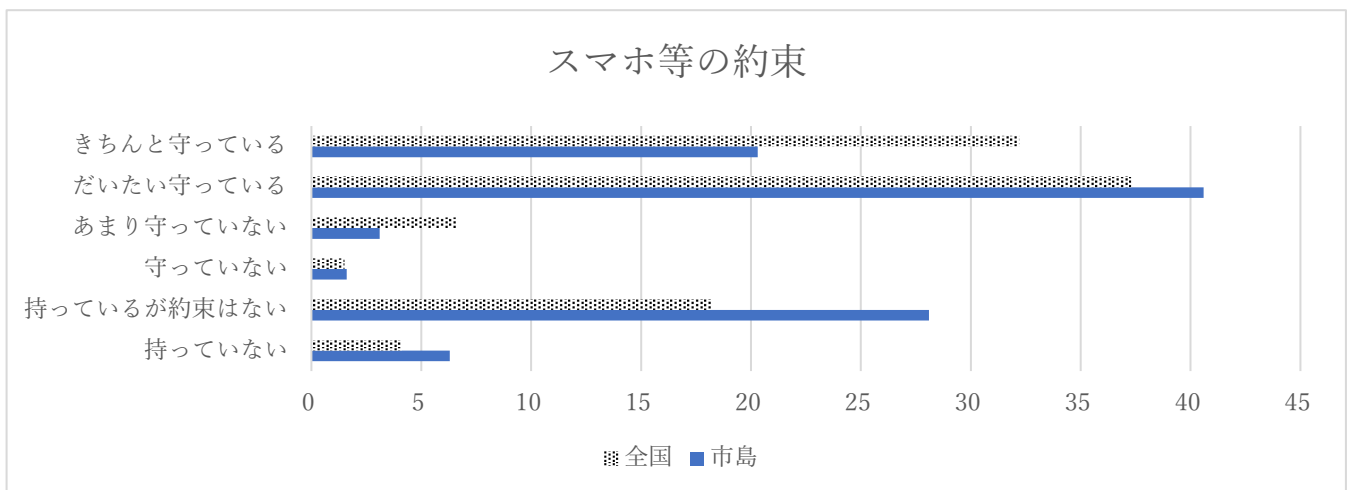
知識技能に関する問題は、全国平均とほぼ変わりませんが、生命・地球の領域における思考・判断・表現の力に課題があり、今後、この分野の力を伸ばす取組を進めます。エネルギー・粒子の領域は、今までのように実験観察に取り組みレポートで思考・判断・表現の力を維持するとともに、地球と生命の領域においては、実験・観察の結果を予想したり、結果から自分の考えを記述する時間の確保、友だちと交流する機会を増やしたりすることで既習の知識・技能を活かして、思考・判断・表現の力を高めていきます。また、学習内容と実生活を結びつけるきっかけとなるような例題やヒントを示し、生徒の興味関心を高められるよう、授業改善に取り組みます。実験や観察がしにくい領域においては、デジタル教材を導入し、視覚支援をしながら理解を深めていきます。

質問紙調査の結果

※全国平均と比較しての考察（グラフ内の数字は%）

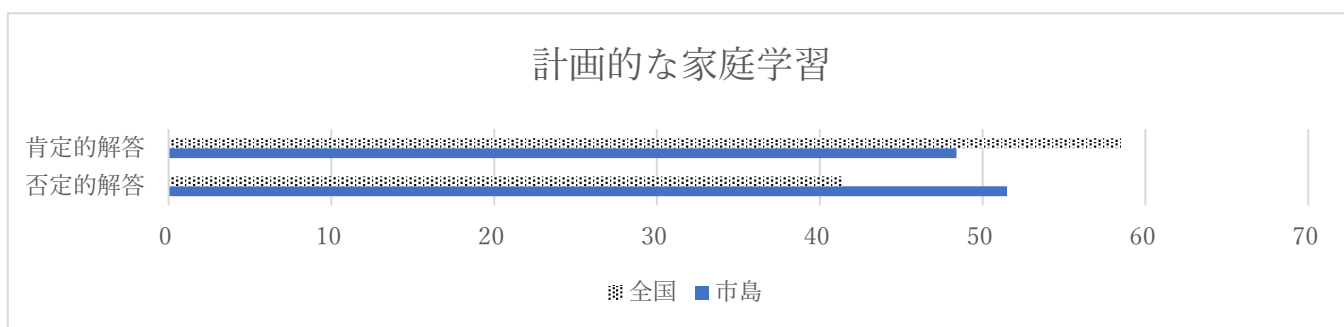
調査結果から見た市島中学校の状況と今後の取組

- (4) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか



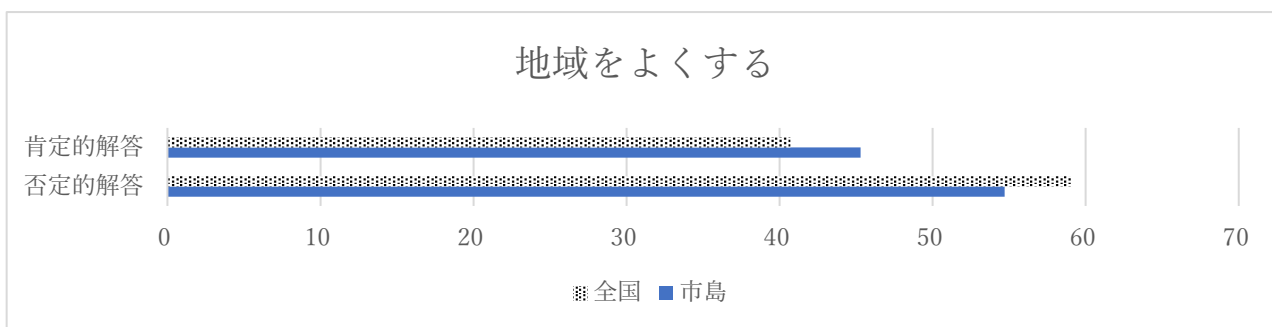
「持っているが約束はない」と回答している生徒の割合が高くなっています。スマホ等は便利な道具である一方、一歩間違えると犯罪に巻き込まれたり、いじめの被害者あるいは加害者になったりします。家庭と連携しながら、よりよい使用方法についての意識を高めていきます。

(20) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)



計画的に家庭学習ができている生徒の割合が半数以下です。学習に対する目的意識をもつとともに、時間を有効に活用しながら学習に取り組む習慣を身に付けていくようにします。

(30) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



地域や社会についての関心が全国平均以上に高いことがわかります。地域行事への参加の割合も高い数値を示しています。将来の地域の担い手として、地域とのつながりを大切にしながら、よりよい地域づくりへの意識をさらに高めていきます。

おわりに

全国学力・学習状況調査結果の考察をふまえて、各教科において授業のユニバーサルデザイン化を進め、生徒全員が主体的に参加する授業をめざしていきます。生活習慣の向上については、昨年度からの課題ですが、「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して肯定的回答が多く(94%)、食育に取り組んでいる成果がみられます。また、「毎日、同じ時刻に寝ていますか」「起きていますか」など、よい生活習慣づくりへの意識についても、よい傾向がみられます。今後、よりよい生活習慣を身に付けるとともに、生徒と生徒、生徒と教員の信頼関係を基盤として、対話をもとに、主体的に学ぶ、さらに楽しい学校づくりに取り組んでいきます。子どもたちのよりよい成長のために、今後ともご理解ご協力をお願いいたします。

※ 令和4年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料については、右のQRコードからご確認いただけます。(国立教育政策研究所 ウェブサイト)

